

## 実習内容

HR、授業見学、授業、中高合同体育大会の補佐、歯科検診の補佐、小5、小6体験入学の補佐

### 目標としたこと

まず第1の目標として、HRの生徒と仲良くなることです。情報科の教育実習生が私を含め2人いたので、基本的に自分の担当クラスの授業をさせていただくことになったので、まずはどんな生徒なのかということを知ることから始めました。初日は、授業見学やガイダンスが続きました。誰一人と話すとすることができず、2日目は終礼を任せていただきましたが、まったく話を聞いてもらえず、3日目は中高合同体育大会だったので生徒と関わることができず4日目を迎えました。どうにか話すことから始めたいと思い、朝礼時に学級通信を配ることにしました。内容は先日の体育大会のことと、私自身の自己紹介を書き、もう1枚には、生徒に対して名前や所属している部活動、趣味や私に対しての質問などを書いてもらう質問票を配りました。これが正解だったようで、私と同じ趣味を持つ生徒や学部に興味をもってくれた生徒が放課後に話しかけに来てくれるようになりました。その日からは毎日生徒が話しかけに来てくれたので、この学級通信や質問票などを配布したのは生徒と仲良くなる1つの手段として正解でした。

2つ目の目標として、授業をこなすことです。情報の授業は基礎と実習を含め各クラス2回、情報の授業を受けている高校1年生は10クラスで20コマ分しかありません。その内指導教諭の先生の授業が約14コマ、その授業を2人で分けるので多くても7コマ分授業をさせて頂くことになりました。各クラス1回しかない授業で1回しか担当することのできない授業だったので、特に力を入れました。基礎はエクセルの使い方、実習はiMovieを使った動画を作ることだったので、自分がゼミなどで学んでいる動画制作での基礎たるものを実習の授業で生徒に伝えることを目標としました。

### 実習で力を入れた点、こだわってやったこと

実習で力を入れた点は、パワーポイントと実際に使うソフトの画面を交互に見せながら説明をしたことです。初めて授業をさせていただいたクラスでは、エクセルの画面だけを前に映し、説明をしていました。それだと席が後ろの生徒が見にくく、細かい部分の説明には不向きだということがわかりました。次の同じ内容の授業では、エクセルの画面を事前にスクリーンショットし、パワーポイントに貼り付け、基礎の基礎で、初心者でもスライドをみてわかるようにと、自分が初めてエクセルを触った時にわからなかったことなどを細かく作成しました。

### 授業で工夫した点

生徒が身近に感じているものや使用したものがあるものを例として取り入れながら授業をした。実習の授業で企画書や絵コンテについて説明する場面やチェックする場面があり、事前の授業状

況を聞いた限り、企画書の書き方は説明しているがどういうことを書くべきなのかということや、絵コンテに何を書くべきなのかということ詳しく説明していなかったそうなので、作品を作るにあたってどういうことが重要で何が必要なのかということをお伝えしました。ストーリーの構成についてなど、動画を作るうえで重要な部分を全く説明する機会がなかったそうなので、事前に生徒の提出した企画書をチェックし、実際に生徒の名前は伏せた状態でスライドに生徒の考えたストーリーを載せ、どの部分が足りないのか、どういう風にストーリーを作っていくのかということをお伝えしながら説明しました。

実習をしての気づき、指導してもらったこと及び反省点

[授業]

○声を思っている以上に張る

→スライドを動かすために一箇所のみで話しているところを、パソコンを移動させるか、それともポインタを使用するかで場所を変え、声が発されている方向を変える

→HR 教室とは違い、情報科室が広すぎるため HR 時よりも声を張らなければならない

○活動の時間を途中で設ける

→内容的に最後に時間をたっぷり設けるとの話だったので、最後に時間を設けたが、説明している節々に班で話し合いをさせる時間をもう少し長めにする

○役割の確認をさせる

→各役割を各で確認させるのではなく、一括指示で挙手をさせるなどをして明確にさせる

○生徒が静かに、着席して、手を止めさせてから話を始める

→時間がなくとも、一旦手を止めさせ、次の指示を出す

○端末の違いによる認識の違い

→端末の違いで部分的に教える内容が異なることがあるので、一括 iMac を使用させるか、私自身が端末ごとの違いを網羅するか

[HR]

○話す時にプリントをずっと見ながら話さない

→プリントを目線の高さにあげて読みながら話す

→目線を下げすぎないこと。生徒が座っている後ろから二番目らへんを見て話すと全員が見られていると感じやすいらしいので、意識しながら話しました。

○メリハリをはっきりつけさせる

→ざわついた状態で話始めない。「朝礼をします」「終礼をします」など今から何をやるということを伝え、こちらに集中させる。

○要件を漏らさず伝える

→朝礼前に確認できていることは全て伝えられたが、朝礼直前に渡された連絡事項などを確認しきれず、中途半端に伝え漏れがあったりすることがあり、担任に注意された。

○生徒の名前を覚えきれない

→頑張って生徒に話しかけたりしてきっかけをつくり覚える。

→最終的には座席に座っている状態だと全員名前が言えるようになっていたのでよかったです。

○生徒掌握

→生徒目線での授業が行われていない。生徒がわかっているという認識で話してしまう。

生徒の理解度を認識できていない

○授業構成

→時間配分、時間内に伝えること、時間があれば伝えること、+ $\alpha$ で伝えることの優先順位

○生徒への叱り方

→生徒にどう伝えるか、ただ単に怒るだけでは意味がない

全般的な感想と今後目指すこと

教育実習を楽しんでいると思いながら過ごすことが出来ました。最初は生徒と関わることや授業をどう行っているかなど不安しかありませんでしたが、最終的には上手く過ごせたと思います。教育実習で生徒との関わり方や授業の仕方など沢山のことを学びました。生徒との信頼関係、先生同士の信頼関係なども築けないと今後やっていくことができないとも思いました。生徒に寄り添うと決めるのならばまず、自分のことをわかってもらわないと生徒は心を開いてくれないと思います。正体のわからない人と仲良くなりたいとは思わないのと同じで。授業を生徒に聴いてもらうにも生徒との信頼関係で変わるのかなと様々な先生の授業を見学させて頂き思いました。そして教材研究に沢山の時間をかけられるとは限らないことです。教師には先生という仕事のほかにもイベント行事の企画や運営、その他沢山のことをする必要があります。その上で教材研究をどうするか考えないといけないと思いました。今後は今回の経験を活かし、そして生徒の生の意見も頂いたのも活かして行きたいと思っています。